

行仙宿・補給路崩落石垣修復作業ほか

◇実施日；平成27年10月12日(月・祝) 快晴；気温10℃

◇参加者；川島 功、児嶋道夫、生熊敏男、橋本 梓、

濱野兼吉、梶野照雄、辻 正博。 計7名。

当初の11日に行事実施の際は、新翔高校の野間先生と生徒4人が参加申込みされていましたが、午前中雨の天気予報であり、崩落石垣修復に支障があり、12日に順延としたので新翔高校の皆さんは参加見合せとなった。

国道168号線檜杖トンネルコンビニに午前7時集合。今回は橋本さんの車には生熊さん、川島さんの車には児嶋さんと私が乗り、新しい宮井橋経由で補給路登山口へ向かう。

車中、先日熊野新聞に掲載された児嶋、川島さんの紹介記事が話題になり、いろいろと話しに花が咲いた。

新しく開通した奥瀬道路は、トンネルと高架橋の連続で、北山村の入口の狭い所を除けば交通量も少なく、大変便利になった。生熊さんは新宮からの時間は、5〜6分短縮されたと報告してくれる。

久方ぶりの行仙宿である。登り口の赤の鉄梯子には、滑らないよう注意を喚起する掲示がされている。

行仙宿小屋の建設にご尽力いただいた元財務大臣塩川正十郎先生は、先月我々が南奥駆道・太古の辻の記念道標を更新した日(19日)に亡くなられ、川島代表・玉岡さん等が告別式に参列されたことや、先生が行仙小屋に宿泊された際に、危険のない様に水場まで補給路ルートンジグザグに変更し、塩川新道として現在のルートになっている話や、沖崎さんが行仙宿迄のこのコースを

帯で掃いてケガのないようにしたとの苦勞譚などを聞きながら登った。

途中、第二ベンチ休憩所の手前で実が赤くなっているのを見つけ写真に撮り帰って調べると、常磐山榎子(トキワサンザシ)で、どうやらピラカンサの仲間らしい。

行仙宿小屋に着くと早速生熊さん導師で般若心経を唱え勤行、本日の作業の安全を祈る。

小屋には電源開発(株)橋本流通事業所；下川原秀幸所長より、2リットルの水ペットボトル2箱(12本)、木炭6kg、乾パン24缶2箱、カセットガスボンベ3本入り3セットが置いてある。

春・秋の年2回、行仙宿迄運び上げての寄贈で本当に有難い。また、行仙宿の水場が枯渇気味で、飲料水は登山者にとって命の水になっている。

各々がジョレンやトンガ、手箕等を持って石垣に向かう。まず崩落石垣箇所までの基礎までの石とグリ石を取り除く、前日の雨のせいか前回より周りからの崩れが少なく基礎地面まで案外早く掘り出せた。



補給路崩落石垣



崩落石垣の基礎面まで掘る



石垣積直し

基礎面を斜めにして、大きく平たい石を傾斜させ最下段とする。

ここからは専門家生熊さんの技術、児嶋・川島さんも石垣の傾斜を考え、玄人肌を發揮して石を選び据え方を変えて、ハンマーで叩いて隙間を少なく安定するように石垣を積んで行く。

私と橋本さんは、先般「から池付近」から修復のため運び込み集められていた石を運び、時には手渡し、石垣が積み上がると掘り出したグリ石を手箕で隙間に埋めて行く。仕事は順調良く進み崩落箇所が略完了し小休止。

児嶋さんは太陽光発電の片方がうまく作動していないので、調査するが原因が判明せず、パネルや配線を調べ屋根の上を見ていたが、最終的には接触不良だったらしく、その後発電をはじめた。蓄電には時間がかかるが正常に戻り安心する。

近くの石垣を見ると、中程が通路側に膨れている箇所があり、大ハンマーで叩くが修正出来ず、結局崩れそうな箇所も基礎から石垣を積み直したが、11時半頃には石垣修復作業は完了した。



崩落箇所石積み完了



崩落しそうな箇所積直し



崩落しそうな箇所完了

11時前に梶野さんがプラスチックの衣装ケースを背負子につけ登って来られ、囲炉裏の薪置き用に利用していたケースを壊したため、責任上新しいのを持参したとのこと。荷物を置くと梶

野さんは水場に水を汲みに降りて行く。

少し早いですが11時半過ぎに昼食となる。昼食後、児嶋さんのコーヒーとカステラを御馳走になる。小屋のガラス窓にヤンマを模したトンボが揺れている。青木さんがアブやブト等の虫侵入を防ぐために掛けたらしい。結構効果があるらしく今年の夏は虫の侵入がなく快適に過ごせたとのこと。

小屋の備え付けノートには、イギリス人らしい英語のコメントが書かれ、彼らのTVショーのシールが貼られている。書かれた英語の氏名が判読できず、それぞれ講釈するがカタカナでの標記をするとところまでは至らず。梶野さんのフェースブックに写真を掲載してはどうかという事で一件落着いた。

午後から伐採された杉の木をロープで引き揚げ、水場径の末口40cm弱×4mの杉丸太は重くて動かせず生熊さんチェーンソーで半分の小切り。3人でロープ使って佐田ノ辻に運び上げる。橋本・梶野さんはストーブで使う薪を斧で、ねじれた木や引揚げた杉丸太をチェーンソーで薪用に小切り、川島さんはハンマーと鉄楔を使って割った。私は小割りされた薪を薪置き場に運び入れた。児嶋さんは発電関係の調整を行う。生熊さん丸太小切り後、チェーンソーの分解掃除。



補給路の石垣修復完了



午前中の作業中



本日の作業中

奈良の辻さんが13時過ぎに登って来られ、太古ノ辻のゴミ回収後、行仙宿・奥駈道付近に一升瓶やビール瓶の欠片が散乱するので回収に登って来たとのこと。

辻さんと私と橋本さんが、瓶の破片や金属片、番線を拾うのに協力。ガラス片は危険だということで小麦粉を入れていた紙袋を用意されていて紙袋が一杯になった。

辻さんは、奥駈道をきれいにするためゴミの回収をして歩いてる方で、先般入会して下さった。

様々な人たちがこの大峰の登山路を安全で安心して歩けるよう関わっている。山で仕事をする人、山に関わる人、山を歩く人、山を穢さないよう心掛けたいものである。

雨で一日ずれたため新翔高校生は来られなかったが、みんなが協力し合い予定した作業を仕上げる事ができた。

行仙小屋周辺は紅葉には少し早い、秋は順調に訪れている。到着した時小屋の温度計は、10度を差していた、それから12度まで上がったがそこまでであった。

登山客は午前中3組笠捨山を目指した。午後から小屋泊まりの縦走の若者が見え、前鬼を6時に出発し、この時間に到着した。若い人は早い。明日は上葛川に下るとのこと。

14時頃に作業は終了し下山した。最後に私はペットボトルをいただいて、登山口の水場で土産に水を汲んで帰った。

行動タイム

新宮 7:00 → 宮井・奥瀨温泉経由 → 8:00 浦向 → 8:15 登山口 8:30
→ 9:15 行仙宿 9:30 → 石垣修復 → 11:30 昼食 12:35 → 薪造り等 →
14:00 行仙宿 14:25 → 15:00 登山口 15:10 → 16:30 新宮。

(濱野記)